



あっという間に11月になりました。先月は、行事が続きましたね。今年も残すところあと2ヶ月余りです。高校3年生は、入試が本格的に始まります。志望理由書や面接についての書籍も図書館にありますので、是非活用してください。また、下級生のみなさんも「まだ先の事」と思わず資料を見に来て欲しいと思います。

<今月のおすすめ本>

ロシアとウクライナの戦争も最近では、取り上げられることが少なくなりました。どちらかといえば、アメリカとイランを巻き込んでイスラエルとパレスチナの戦争が注目されています。日本にとっては、北朝鮮の動向が一番気になるところです。

さて、「イスラエル」というとみなさんはどのようなイメージを持つでしょうか。改めて考えてみると「イスラエル」という国を私たちは、あまりよく知りません。ニュースを見ていて「何でイスラエルとパレスチナの争いで、アメリカが関わってくるの?」「パレスチナの武装組織の幹部が殺害されて、なぜイランが出てくるの?」と不思議に思うことばかりです。そこで、「イスラエル」の始まりを遡って行くと、ユダヤ人と旧約聖書/創世記12章1節にたどり着きます。よろしければ、自分の聖書を開いて次の一節を探してみてください。

神は「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい」とおっしゃいます。「神が示す地」それが「カナン」であり「約束の地」のちのイスラエルです。その後、ユダヤ人は受難の歴史をたどります。また、イスラエルの地もその時代ごとに様々な者に支配されていきます。こうして、紆余曲折を経て現在の状況に至っています。その流れも本には書かれています。

副題にもあるようにこの本を読んで、もしかしたら

スッキリするよりも「やっかいなことだな」と

気持ちがモヤモヤするかもしれません。しかし

知ることは大事なことです。ぜひ、読んでください。

